瑞宝小綬章を授ける
雨海　芳重　川端　則和
小牧　哲士　佐塚　悌
須田　敏文　楯　均
西山　允清　藤本　政夫
瑞宝双光章を授ける（各通）
阿部　久夫　伊藤　巖　木下　政利
栗原　利光　佐々木三謹　多田　啓靖
瑞宝単光章を授ける（各通）（以上二十七年十二月十日）
（浜松医科大学名誉教授）　中島　光好
瑞宝中綬章を授ける
阿島　丈夫　大坂間陽一郎　大西　俊之
河内　昭賢　玉利一成　田母神貞次
寺尾　享美　中村三郎　林　譲
原　邦廣　古屋　利男　村松　勇雄
横田　利満
瑞宝双光章を授ける（各通）
飯田　眞吾　菅井　行雄　高鍋　久男
津田　正和　萩原　博道
瑞宝単光章を授ける（各通）（以上二十七年十二月十一日）
（国立大学法人職員）　魚崎　泰弘
瑞宝小綬章を授ける
秋庭　友安　岡村　清　奥野　一
田久　敬吾　竹本　弘　山下　武雄
瑞宝双光章を授ける（各通）

野口　英彦
小泉　浩
鈴木　兼雄
西島　友行

（警視庁警部）　澤田沙智子
瑞宝単光章を授ける（各通）（以上二十七年十二月十二日）
（秋田大学名誉教授）　倉田　正義
（岐阜大学名誉教授）　渡邊　義行
瑞宝中綬章を授ける（各通）
金澤　秋宏　高貝　征男
瑞宝小綬章を授ける（各通）
伊場　泰吾　杉光　邦弘
種村　敏行　月山　裕明
山口　邦夫
瑞宝双光章を授ける（各通）
（警視庁警部）　安斎　政勝
（陸曹長）　谷口　勇孝　福岡　清
瑞宝単光章を授ける（各通）（以上二十七年十二月十三日）
只木　淳仁　横田　忠
瑞宝双光章を授ける（各通）（二十七年十二月十四日）
瑞宝小綬章を授ける（二十七年十二月十五日）　猿谷　豊

稲村　興輔
佐藤　雅嘉　竹内　明廣
野口　人生　山口　藤一
石井　保子
芝尾　直樹

皇室事項

歌会始の儀

一月十四日午前十時三十分、宮中において、歌会始の儀を行われた。

御製、御歌、皇族の詠進歌、召人及び選者の詠進歌並びに選歌は、次のとおりである。

御　製

戦ひにあまたの人の失せしとふ島緑にて海に横たふ

皇后宮御歌

夕茜（ゆふあかね）に入りゆく一機若き日の吾（あ）がごとく行く旅人やある

スペインの小さき町に響きたる人々の唱ふ復興の歌

ふるさとの復興願ひて語りあふ若人たちのまなざしは澄む

日系の人らと語り感じたり外つ国に見る郷里の心

海わたりこのブラジルに住みし人の詩歌（しいか）に託す思ひさまざま

東宮　文仁親王
東宮妃　紀子
眞子内親王
佳子内親王
正仁親王妃　華子
寛仁親王妃　信子
憲仁親王妃　久子
彬子女王
承子女王
絢子女王

広がりし苔（こけ）の緑のやはらかく人々のこめし思ひ伝はる

若人が力を合はせ創りだす舞台の上から思ひ伝はる

人と人思はぬ出会ひに生涯の良き友となり師ともなりなむ

東北の再会かなへし人々の笑みと涙に心やすらけく

百歳をむかへたまひし祖父宮に導かれこし人生の道

「げんきです　やまこし」といふ人文字を作りし人ら健やかであれ

鳥たちの声に重なる原宿の人の気配と日暮の合図

出雲路へ集ひし人の願ひ事縁の行方は神のみが知る

駅出（いで）て交差路わたる人の群あたたかき冬の朝の香放つ

集団をたえず動かしつづけきてことば穏（おだ）しき人となりくる

一対の脚が踏ん張る大地あり季節違（たが）はず種を蒔く人

二人ゐて楽しい筈の人生の筈がわたしを置いて去りにき

いにしへのおほいにしへの大人（うし）たちもほほづゑに月見る夜ありけむ

指の跡しるく残れる篠笛（しのぶえ）を吹きて遥けき人呼ぶごとし

選　歌（詠進者生年月日順）

休憩所の日向に手袋干しならべ除染の人らしばし昼寝す

野の萩をコップに挿して病棟に人ら坐れば月は昇りぬ

撫植（ぶな）ゑて百年待つといふ人の百年間は楽しと思へり

人知れず献体手続してをりぬ伯母を見送るくんちの街に

二手にと人は分かれて放牧の阿蘇の草原に野火を走らす

彼等とのつきあひ方と人のごとく語られてゐる人工知能

かぎろひの春の手習ひ人の字は左右にゆつくりはらつてごらん

一人でも平気と吾子が駆けてゆき金木犀（きんもくせい）は香りはじめる

雨上がり人差し指で穴をあけ春の地球に種を蒔きたり

日焼けした背中の色がさめる頃友達四人の距離変化する

召人　尾崎左永子
選者　篠　弘
選者　三枝　昂之
選者　永田　和宏
選者　今野　寿美
選者　内藤　明
福島県　菊地　イネ
宮城県　柴田　和子
長野県　木内かず子
長崎県　渡部誠一郎
大分県　佐藤　政俊
神奈川県　内田しず江
香川県　大林しずの
埼玉県　中込　有美
東京都　髙橋　千恵
新潟県　内山　遼太